

自民党 京都市議員団 ニュース

平成30年(2018)3月25日発行

■発行人/井上与一郎
 ■編集委員/みちはた弘之、田中たかのり、森田守、加藤昌洋、平山たかお
 〒604-8571 京都市中京区河原町御池
 TEL.075(222)3718~23 FAX.075(257)3091
 http://jimin-kyoto.jp/

No.60

平成30年度京都市予算 全会計合計 1兆7、155億円

一般会計7、845億円 特別会計6、664億円
 公営企業会計(上下水道・市バス・地下鉄)2、647億円

私たち自民党市議員団は、「財政規律と積極的予算の両立」を求めた要望書をもとに策定された平成30年度の京都市予算案について、2か月間にわたり、各事業の目的、使途、効果などについて徹底した議論、審議を行ったうえで可決し

ました。特に10月に導入される宿泊税の使途については、「市民、観光客、事業者」すべての人々が導入効果を実感できる取組となるよう強く求めました。私たち議員団は、これからも京都市会における最大派の責任と使命を自覚し、明治改元

30年度予算の4本柱・予算編成におけるポイント

- ① 日本の「こころの創生」を牽引する「世界の文化首都・京都」の実現
- ② 京都の強みを最大限に活かした地域経済の更なる活性化
- ③ 市民のいのちと暮らしを守り、子育て・教育環境を一層充実
- ④ 参加と協働による地域の個性と活力あふれるまちづくり



開業当初のチンチン電車



琵琶湖疏水

今年、我が国は明治に改元をされ、近代国家へと歩みを進めましたが、京都にとっては受難の時代の始まりでもありました。事実上、都の地位を失い、当時の人口の3分の1が流出するなど、大きな危機に直面

明治150年 京都市役所120年



またきち(京都市政マスコットキャラクター)

150年、市役所開庁120年です。150年前、我が国は明治に改元をされ、近代国家へと歩みを進めましたが、京都にとっては受難の時代の始まりでもありました。事実上、都の地位を失い、当時の人口の3分の1が流出するなど、大きな危機に直面

その中で、明治31年に、京都、東京、大阪の三都市の自治権を制約する市政特例の撤廃を実現して、市民の手によって市長を選任し、専任の市職員を置き、市役所を開庁し、自治が始まりました。

そこで、明治改元150年を記念し、今日の京都発展の礎を築いてこられた先人の皆様の偉業に思いを馳せる、多彩な取組を平成30年度は行って参ります。

明治150年・京都のキセキ・プロジェクト(28事業)の4本柱

- ① 明治改元記念事業(記念シンポジウムなど)
- ② 明治の京都の精神を学び、現代の課題解決に活かす事業
- ③ 明治の京都策を体感し、次の世代に継承する事業(琵琶湖疏水通船、市電など)
- ④ 明治150年を契機とした文化、観光、伝統産業、地域の歴史資産等の振興(芸術・学校、宮廷文化など)

民泊条例 を一部修正のうえ可決

今年の6月15日から施行される住宅宿泊事業法(民泊新法)に対応する京都市の条例を一部修正のうえ可決しました。これまで旅館業法の下で営まれていた施設は許可が必要であったのに対して、民泊新法の下では届出制となることから、条例において京都市独自のルールを定めたものとなりました。

ルールの主な内容としては、住居専用地域における

民泊条例及びガイドラインのポイント
 住居専用地域での営業は原則60日間
 (1月15日から3月15日の間のみ)
 駆け付け要件の設定
 (おおむね半径800m以内かつおおむね10分以内の場所に管理者設置)
 協定の締結を努力義務化
 (事業者は地域住民の方と運営に関する協定を結ぶよう努めなければなりません)

営業日数の制限や不測の事態等に民泊事業者が対応できるように駆け付け要件を設定したことです。法律では住居専用地域でも最大180日間の営業が許可されていましたが、京都市の独自ルールでは原則1月15日から3月15日までの60日間にしており、住環境の保全が図られています。また、駆け付け要件では、おおむね半径800m以内かつ、おおむね10分以内に駆け付けられる場所に管理者を置くことが義務付けられます。また、提案された条例案に、「地域住民と民泊事業者



地域と調和した民泊に

が協定を結ぶことを努力義務とする」という修正を自民党市議員団から提案し、賛成多数で可決されました。法律と条例の施行後も適切に民泊事業が運営されるよう引き続き議論を深めてまいります。

財政規律と積極投資両立

百年後の京都を見据え 平成30年度予算編成について

●山科区

吉井あきら議員

■吉井あきら議員（質問）厳しい財政状況のもとにあっても決して縮小一辺倒になつてはなりません。財政規律を守りながらも、今こそ京都の未来を切り拓くために、明治の先人たちに学び、積極果敢に投資を行うことが重要であります。この投資こそが安心と豊かさを実感していただき、将来、市民の財産となると考えます。

市長はこの厳しい局面において、どのような決意で編成に臨まれたのか。

門川大作市長（答弁）

厳しい財政状況の中、財源を確保

●吉井あきら議員の質疑項目●

- 1 平成30年度予算編成について
- 2 文化庁移転に伴う庁舎整備に対する京都市の取組について
- 3 これまでの廃棄物行政の総括と今後について
- 4 働き方改革について
- 5 京都市の将来を見据えた道路ネットワークについて
- 6 山科区をはじめとする市内周辺の民間バス運行地域におけるバス路線の充実について

■吉井あきら議員（質問）大津方面の1号線、亀岡方面の9号線整備は京都市の未来にとって不可欠です。しかし、予算を考えると容易ではありません。国府市の負担割合を考えると、あらゆる法律を活用し、市の負担軽減に努め取り組むべきと考えますが、いかがですか。

■門川大作市長（答弁）ご指摘の大津方面、亀岡方面のルートの必要性は十分認識しております。今後、その優先順位、受益に応じた費用負担のあり方を念頭に置き、国、府、更に隣接する自治体と議論を深め、広域的なネットワーク実現に向け、取り組んで参ります。

山科ー大津に新ルート 渋滞解消・安全確保へ

■吉井あきら議員（質問）

山科ー大津に新ルート
渋滞解消・安全確保へ

山科区民の足を守る 市バス共同運行へ

■吉井あきら議員（質問）

■吉井あきら議員（質問）周辺地域のバス路線の充実に向けて市として制度の更なる充実できないのか。MM（※）事業に取り組んでも採算性が本格運行を実現できないところについては、交通局には

市バスの共同運行も視野に入れ、格差是正、何よりも利便性向上に向け汗をかいてほしいと思いますが、いかがですか。

■門川大作市長（答弁）30年度は更に支援予算の充実を図って参ります。また、山科地域では、吉井議員御提案の市バスの共同運行など様々な手法を含め、民間バス事業者としっかり協議を行い、山科区民の皆様への生活の足



民間バス事業者と市バスとの共同運行に向けて

を守って参ります。

※MM：モビリティマネジメント

市民生活に寄り添う政策

コミュニティ活性化へ

各自治会の知恵・取組を相互共有

●西京区

西村義直議員

■西村義直議員（質問）家賃や駐車場並びにエレベーターや街灯などの共益費の徴収が

できないなどの課題がある中で、今後、市営住宅の地域コミュニティの活性化にどのように取り組んでいくのか、お答えください。

鈴木章一郎都市計画局長

（答弁）費用徴収に関する自治会等からの御相談に対しては、滞納者への督促方法を助

言する等の支援を行ってまいります。その他、自治会等が独自に駐車場使用料の徴収に口座振替の仕組みを利用されている事例もあり、引き続き、地域コミュニティの活性化に向けた寄り添った支援を行って参ります。

女性孤立から守る 若草プロジェクト

西村義直議員（質問）

更生保護女性会では、虐待や貧困により生きづらさを抱える若い女性の悩みに寄り添い支援



阪急洛西口駅～桂駅間高架下における有益な整備事業

本市の支援が再犯防止推進のモデル事業に認定されれば、法務省から京都市に補助がなされると聞いており、地域活動を支援する良い機会ではないかと考えますが、京都市の考えをお答えください。

門川大作市長（答弁）

本市では来年度、様々な自立支援施策を実施している保健福祉局を中心に、関係局で構成するプロジェクトチームを新たに設置し、具体的な検討に着手して参ります。

連携や、国のモデル事業の活用を視野に入れ、再犯防止や自立支援のための具体策や、地域における支援のあり方等を議論し、「再犯防止計画」を策定して参ります。

人生最期の公施設 中央斎場利便向上

西村義直議員（質問）

人生の最期に利用される公的な施設としての利便性の向上に予約制度の導入や施設の拡充を含めた京都市の対策の現状をお答えください。

門川大作市長（答弁）

市民の皆様の声や葬祭業者の皆様の見解も伺いしながら、御遺族の負担を少しでも和らげるよう、引き続き検討して参ります。なお、身寄りや財産がなく、亡くなられた方

の葬祭費については、生活保護制度等の適用が可能な場合もあるため、個々のケースに応じて、適切な制度運用に努めて参ります。

高架下空間創出で 洛西口・桂間活性化

■西村義直議員（質問）

洛西口～桂駅間プロジェクトについて、一日も早い活用と地域の活性化に向けて、進捗状況ならびに付近の整備状況についてお伺いします。

■門川大作市長（答弁）平成30年度には、本市の子育て応援施設等の設計を進めるとともに、広く市民に愛され、全国に誇れる魅力ある高架下空間の創出を通じて、洛西ニュータウンの再生や大枝大原野のブランド戦略との連動をはじめ、西京区全体の活性化にしっかりと取り組んで参ります。

●西村義直議員の質疑項目●

- 1 京都市技術職員の確保と能力向上
- 2 自治会館や集会所の整備促進
- 3 市営住宅における管理運営
- 4 更生保護活動と就労支援の取組
- 5 京都市中央斎場の利便性向上
- 6 民地における公益な土地活用
- 7 阪急電鉄洛西口駅から桂駅間の高架下の活用

【代表質疑】 2月市会 (2月22日)

小中一貫教育充実に向け

保護者・地域との連携・協力

小中合同運営協議会設置拡充へ

●下京区 下村あきら議員

教育をどのように充実されていけるのか、お答えください。

■下村あきら議員 (質問) 今の義務教育学校の設置を一つの契機として、全国の小中一貫教育をリードしてきた本市の実践を踏まえつつ、また先の全国サミットで発表された他都市での優れた実践にも学びながら、今後、小中一貫

■在田正秀教育長 (答弁) 下村議員御指摘のとおり、施設等が独立した小・中学校で小中一貫教育に取り組む中学校区や、一つの小学校から複数の中学校へ進学する中学校区においては、小中一貫教育を一層工夫して進める必要があることから、どの中学校区でも共通して取り組むべき5つの実践を定めた「京都市小中一貫教育ガイドライン」を策定しました。

29年度中には、小中一貫教育をわかりやすく紹介したリーフレットを配布するとともに、保護者や地域と協働した取組等の紹介などにより、保護者・地域との一層の連携・協力を進めて参ります。

また、小中合同の学校運営協議会の設置拡大を進めるなど、小中一貫教育の更なる充実に努めて参ります。

●下村あきら議員の質疑項目●

- 1 小中一貫教育の充実について
- 2 上下水道事業における技術継承について
- 3 災害の多様化に伴う救助体制の強化について
- 4 市バスの混雑対策としての振替輸送と車掌の添乗について
- 5 卸売市場法改正を踏まえた京都市中央卸売市場第一市場の今後について
- 6 四条通の地下道の活性化について (要望)
- 7 京都駅西部・東部・東南部エリアの連携した取組による地域活性化について (要望)

中央市場の未来へ 慎重にルール設定

■下村あきら議員 (質問) 卸売市場法改正で想定される「市場ごとのルール設定」について、京都市中央市場の将来像を踏まえて、どのような考え方で臨まれるのか、お聞かせください。

■門川大作市長 (答弁) 下村議員御指摘のとおり、卸売市場法改正に係る議論の過程で一部に市場不要論や法自体を廃止するとの極論もありましたが、与党国会議員のお取組もあり、最終的には市場の機能・役割を認め、食品流通の核として堅持していくことが政府方針として明示されま

生活と経済・地域の未来図

景観規制を地域別に改善

市民の暮らしやすさと定住を促進

●南区 しまもと京司議員

設置し、具体的な施策の在り方も含めた議論を進めて参ります。

文化は保存・継承から 市民経済・産業振興に

■しまもと京司議員 (質問) 文化庁の移転で「京都が日本の文化を牽引」という使命感や、理念・啓発系の事業予算にも重きが置かれているようであるが、歴史と伝統的な文化・芸術ばかりではなく、身近で多様なジャンルの「現代

した。
市場の取引ルールを定めるに当たっては、卸・仲卸業者それぞれが役割を果たす中で切磋琢磨しながら能力を最大限発揮できるものにする必要

があります。
「京都市中央市場宣言」でお誓いしたとおり、京都市中央市場が生鮮食品の中核的な流通拠点としての使命を果たし、我が国の食文化を力強

く牽引していくため、大変厳しい状況の中ではありますが、市場関係者と十分に議論しながら、仕組と施設の両面から強力に取組を推進して参ります。

南区の現状と将来像 地域・区民で新計画

■しまもと京司議員 (質問) 私の地元南区は、工業・商業・農業・大交通網や上下水道拠点他、各種産業や市民生活インフラ、経済基盤を支える京都にとつての非常に重要な区域であり「持続可能なコンパクトシティ構想」のモデル区ともなり得ると考える。区内各所で様々な変革的開発

●しまもと京司議員の質疑項目●

- 1 景観政策を地域現状に即して改善、市民の住みやすさと定住を取り戻す今後の方針について
- 2 人口減少・超高齢化に現実的かつ早急な対策で急激な被害から市民を守る社会体制について
- 3 文化施策は重い伝統性や保存の観点から、身近な現代カルチャー・京都文化も市民経済・産業振興に
- 4 他都市大企業よりも市内発注で不正・談合を防ぎ、市民安全と公正性を守る公共事業のあり方
- 5 現代と今後における物流の社会的重要性と環境の改善に向けた市の取組について
- 6 南区の現状・経緯と様々な課題・展開の見解、区民力での新しいまちづくり計画について

や構想が進む今、市における南区の位置づけと社会的動向、区民主体の確固たる新しいまちづくりビジョン策定についてどう考えられるか。
■村上圭子副市長 (答弁) 南区は世界的な企業や農業・歴史と多様な文化・魅力があふれ、「地域力が息づく」「美しい」「活力あふれる」まちという三つの未来像を掲げ、取組を進めています。次期の南区基本計画も更なる地域の強み・個性・魅力が高まるものとなるよう、区民の皆様と活発な議論を行って参ります。



中央市場の外観



南区・京都の文化的象徴である東寺(教王護国寺)と近辺景観

北区 小林 正明

大久保利通の建白で、都が東京に移ったのが150年前。千年の都、京都人の矜持が発揮された。番組小学校の創設、数々の近代産業化。これらは明治の時代にあつた「恩送り」「次の世代に施す」そのもの。



上京区 中村三之助

本市は「明治百五十年」関連事業を多岐にわたりに展開する中、古都の春を彩る花街公演「京おどり」では、明治維新百五十年を記念した舞が披露されます。今後の民間での盛り上がりを期待しています。



中京区 津田 大三

明治150年、市役所開庁120年、パリとの姉妹都市締結60年、世界文化自由都市宣言40年、京都にとつて大きな節目。先人の熱い思いに心馳せ、責任ある政治に最善を尽くします。



東山区 平山たかお

伊藤博文公は明治元年の時27歳。私も初当選が27歳。重ね合わせるのには恐れ多いですが、本年は開庁120年でもあり、30年度予算が未来志向の予算編成となるように議論を致しました。



明治150年 市役所開庁120年

「未来を展望し挑戦する予算」を議論

明治150年、市役所開庁120年に当たり、予算市会を振り返つての感想や、京都への思いを自民党議員団20名に聞きました。



マタリノス (京都市会マスコットキャラクター)



またまき (京都市会マスコットキャラクター)

皆さんのご意見・ご要望をお寄せ下さい

〒604-8571 京都市中京区河原町御池 自民党京都市会議員団 jimin3@nifty.com FAX.257-3091

北区 山本 恵一

明治期、社会や生活が大きく変わる一方、送り火など変わらぬ大切に守ってきたものもありま。明治の先人達の行動や哲学を改めて見つめ直し、学び、今と未来に活かしていきたいです。



上京区 寺田 一博

明治2年に番組小学校が創設され12年に上京区、下京区を設置。22年に京都市が発足し31年に市役所開庁と明治に京都の礎が生まれた事を実感。その崇高な精神を次世代に伝える議会にしたい。



中京区 加藤 昌洋

依然として厳しい財政状況ではありますが、明治時代に近代京都の礎を築かれた先人に倣い、縮小一辺倒ではなく、未来の京都がより良くなるよう、まちづくりの議論を行いました。



山科区 富 きくお

平成から新しい時代へ、また明治150年という大きな節目の年の予算は、厳しい財政状況の中でも、未来の京都を見据え、文化・市民生活・経済活性化に資するものでなくてはならないと考えます。



山科区 吉井あきら

財政規律を守りながらも、今こそ京都の未来を切り拓く為に明治の先人たちに学び、積極果敢に投資を行うことが重要であります。50年後100年後、京都が更に発展するよう全力を尽くします。



下京区 下村あきら

開庁120年、歴史の重みを踏まえ、今と未来に必要な教育、福祉、子育て支援をはじめ、課題の多い民泊条例の議論や京都駅東部エリアの活性化、四条地下道タイムトネル事業の実現に努力。



右京区 井上与一郎

本市は、現在、人口減少など大都市の困難に直面している。明治150年を契機に当時の人々が明治の精神と知恵で復興・発展を成し遂げた足跡を学び、現在の復興・発展に活かしていきたい。



南区 しまもと京司

①明治回帰的な少人口化に新対策②景観策の弊害と住改善③文化で経済・産業振興④大企業諸不正を糾弾⑤重要化物流の厳況・環境⑥南区の重要性・現状・新計画：他を代表質問でも徹底議論

南区 棕田 隆知

京都市が自治権を獲得して120周年を迎え、京都市民として為すべきことは、過去の歴史を学んで先人の智慧を活かし、そして現在を生かされていく自覚のもと、未来に責任を果たすことです。



右京区 田中たかのり

150年前、人口減少という危機から町衆が京都を救った。いま、京都に住む、働く、学ぶ、遊ぶ、そして、愛する私たちが先人同様、京都を創っていく気持ちを分かち合う必要がある。



右京区 森田 守

明治一五〇年、先人たちは琵琶湖疏水や市電など京都の礎となる事業を成し遂げました。私たちが一〇〇年後の京都の姿を見据え、「文化力」によるまちづくりを進めていきます。



西京区 田中 明秀

困難な時代に先を見越して、琵琶湖疏水等投資的な事業を展開された明治の先人。今を生きる我々も語り継がれる仕事が出来よう、自民党議員団一丸となって取り組んでまいります。

西京区 西村 義直

この予算が、一四七万市民の生活や暮らしを守るための予算であることに切に願います。明治維新から一五〇年、京都市開庁一二〇年の節目を大切に新しく創造する京都市のため尽力致します。



伏見区 繁 隆夫

歴史に学ぶことは大切です。明治期の京都の先人は都市存亡の危機に立ち向かい、偉業を成し遂げました。我々も逆境に立ち向かい未来の京都の礎となる取組に挑戦しなければなりません。



伏見区 橋村 芳和

伏見区の誕生は昭和6年。伏見市など9の市町村が京都市との合併から意外と歴史が浅い。開庁120年を祝うに留まらず洛外にもっと行政の光を。まずは環境先進都市伏見区の実現に取り組む！

伏見区 みちはた弘之

明治維新150年、脈々と引き継がれてきた子育て文化の伝統を踏まえ、京都で産みたい、育みたい、学びたいと思える「はぐくみ文化」の創造を目指すための予算の編成に真摯に取り組みました。

